

[シラス]

1. 経年経過及び平成19年7～8月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トン进行減少傾向を示し、平成14, 15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後平成16年は3,507トン、平成17年は3,368トンと比較的好調に推移しましたが、平成18年は2,842トンと若干減少しました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年は842トン、平成16年は1,180トン、平成17年は1,147トンと増加傾向を示し、平成18年は1,444トンと好調に推移しました。

今期の西薩海域ではカタクチシラス主体に53.4トンの水揚げで、前年の35%、平年の22%と前年・平年を大きく下回り、低調に推移しました。志布志湾海域ではカタクチシラス主体に58.7トンの水揚げで、前年の29%、平年の41%となり、低調に推移しました。

2. 平成19年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域では前年・平年を下回り、志布志湾海域では前年並みで平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域では秋漁の水揚量と相関の高い夏期の降水量が前年・平年よりかなり少なく、また漁模様が夏以降低調に推移しているため、来遊量は少ないと考えられます。志布志湾海域では、近隣県の漁模様が低調に推移していることより、来遊量は少ないと考えられます。

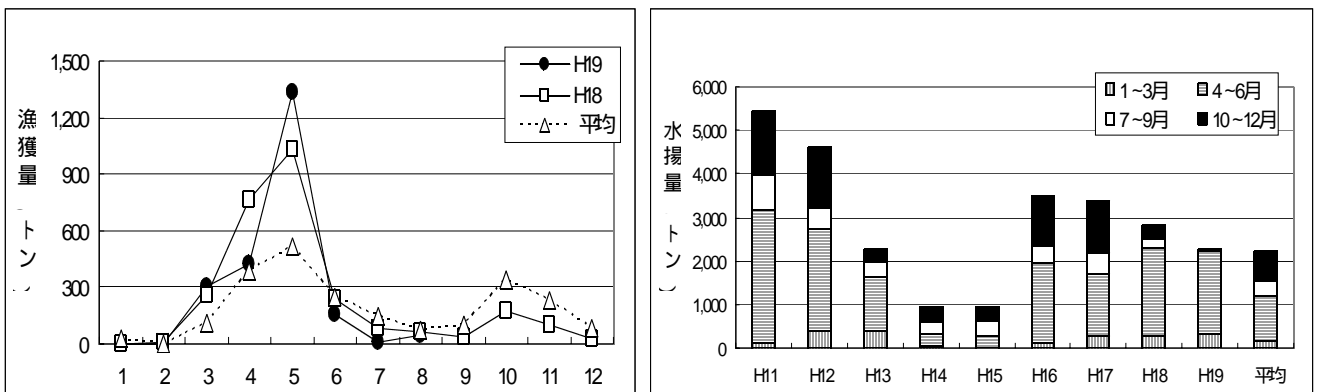


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平成18年8月末までの水揚量を使用。

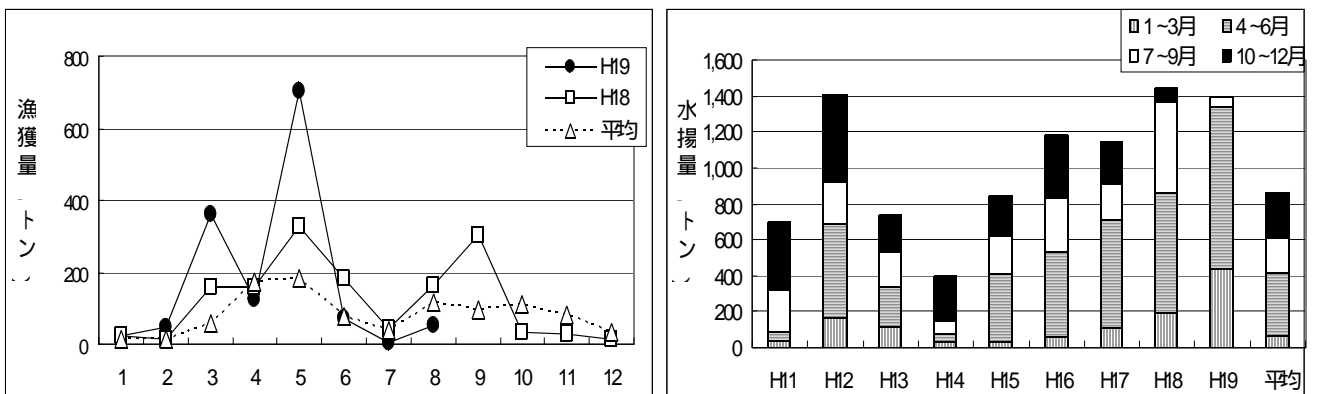


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平成18年8月末までの水揚量を使用。